

「北海道立美術館等作品収蔵計画策定検討会議」議事録

1 日時

平成30年12月21日（金）13:30～15:00

2 場所

道庁別館7階 教育委員会室

3 出席者（委員）

札幌芸術の森美術館長	佐藤友哉
北海道教育大学岩見沢校教授	三橋純予
生涯学習推進局長	大川祐規夫
道立近代美術館副館長（館長の代理）	馬橋功
道立近代美術館学芸副館長	佐藤幸宏
道立三岸好太郎美術館長	齊藤和利
道立旭川美術館長	梶浦仁
道立函館美術館長	堤邦雄
道立帯広美術館副館長（館長の代理）	芳村桐子
道立釧路芸術館長	中田幸吉
文化財・博物館課長	小松智子

4 運営者（事務局）

道立近代美術館学芸部長	苦名真
文化財・博物館課主幹（博物館グループ）	菅野泰之
文化財・博物館課主幹（博物館グループ）	久米淳之
文化財・博物館課主査（博物館グループ）	佐藤泉

5 傍聴

可（傍聴者なし）

6 議事要旨

(1) 開会

生涯学習推進局長挨拶

(2) 意見交換

次の項目について、資料に基づき説明し、意見交換を行った。

ア 第3期北海道立美術館等作品収蔵計画（平成20年度策定）の評価（案）

評価の概要及び道立美術館等（近代美術館、三岸好太郎美術館、旭川美術館、函館美術館、帯広美術館、釧路芸術館）の館別評価（収集と活用状況）

イ 第4期北海道立美術館等作品収蔵計画（素案）

収蔵計画の変更点・考え方及び各道立美術館等の館別の収集方針、活用基本方針

(意見交換)

発言者	発言内容
文化財・博物館課 小松課長	まず、書いてある内容について、これはどうなのか、ということなど ございませんか。
札幌芸術の森 美術館 佐藤館長	つくづく大変な作業だったと思って、みなさんの御苦勞に感謝申し上げたい と思います。 基本的には、説明いただいたように、2期、3期、それから4期と継続 されている、継続性に関しては保たれていると思います。 それから、評価をして、例えば範囲を絞り込む、そういうことも見ら れたのですが、ちょっとどうなのかなと思ったのですが、近代美術館 にしても、旭川美術館にしても、北海道の美術でも、これまでファイ ンアートを基本にしてきましたが、デザイン、工芸、写真、映像作品と書 いてありますが、これは結構広がっているのではないかという気がしま した。一応、北海道の中のそういうジャンルということであれば、それ なりの位置付けということがあるかもしれませんが、写真といっても結 構幅広いので、現状がどういう風なのか気になりました。 それから、映像芸術というのがありました、釧路美術館の映像とい うのは、いわゆる写真とビデオ等の映像を含むという考えでよろしいで すか。
釧路美術館 中田館長	保存状態、時代背景が変わってきていまして、その辺がちょっと。
札幌芸術の森 美術館 佐藤館長	「長倉洋海（ながくらひろみ）」という作家がいます、それが釧路 美術館の1つの収集方針の端緒というか、そういう感じで進めていたか と思います。写真は、その時、映像みたいなものがあつたかなと思いま して、ちょっと記憶がないのですが、当初から映像入ってましたか。
釧路美術館 中田館長	基本方針にはありますが、映像としての作品はないという状況です。 ですから、もし収集するにしても、安易にすぐに取りかかるという訳 にはいかない状況になっているのかとは思っています。
札幌芸術の森 美術館 佐藤館長	写真プラス、いわゆるメディア芸術ですが、写真だけでもすごく広い と思います。さらにメディア芸術となると、ものすごく広がる。これ は、もう少し限定した方がいいと思います。評価だけでもいいのですが、 そういう感じが少ししました。 もちろん集めることに関して異存はないのですが、かなり広いと思 いまして、いわゆる風呂敷は、対象の幅は広く広げつつ、具体的に何を というところは、ある程度セレクトしていく考え方で考えていく。限定 したという大きな方針からすると、そのあたりが少し風呂敷が広がり ている感じがしないでもないかと思えます。
文化財・博物館課 小松課長	風呂敷は、対象の幅は広く広げつつ、具体的に何をというところは、あ る程度セレクトしていく考え方で考えていきます。
札幌芸術の森 美術館 佐藤館長	どちらにしても、限定しなければいけないと思うのですが。 あと、近代美術館の現代の美術として、斬新なコンセプトや技法によ る多様な分野と書いてありますが、これは具体的にどのようなことを考 えているのでしょうか。

近代美術館 佐藤学芸副館長	近年は、メディアでITを使ったようなものも出てきていますので、従来の平面や立体の区分には入らないもの、メディアアートといったようなものも含めて、文言修正というか、入れています。
札幌芸術の森 美術館 佐藤館長	これも範囲が広いですね。全体的には、前計画の中の現代的な作品を収集するという方針は踏襲されているということですよ、なかなか整理されているなと思って見えています。
北海道教育大 学岩見沢校 三橋教授	<p>道立の美術館は、それぞれ6館のコレクションの多様な差異があって、それがアートギャラリーで可視化できたという感じがあり、これからのアートギャラリーの活動というのが、すごくいいのではないかとこのを、元から思っています。</p> <p>コレクションについては、やはり、北海道の美術史を担っているのが道立の美術館だと思いますので、その中で、平成以降、次がどんな年号になるかわかりませんが、そこで押さえておきたいというものは持っておくべきだというふうな形でみていくのもいいのではないかと思います。</p> <p>写真は、今、写真映像等のお話をされていましたが、写真というのは、やはり北海道は渡来した3つのうちの一つである訳で、特に函館美術館はそうなのかもしれませんし、あと、釧路美術館も収集されているということで、私も東京都写真美術館におりましたので、北海道というのは、写真の聖地の一つとっていました。</p> <p>当たり前、写真美術館の時には、横浜と長崎と函館というところは、写真が渡来したところ、それぞれに他の国から来たところですので、何かそのようなイメージでしたが、北海道に来たら、それほど皆さんあまり意識されていないというところがあり、そこは打ち出していいのではないかと。</p> <p>それは必ずしも収蔵だけではないとは思いますが、入館者が少ないかもしれませんが、写真の場合、なにかこう、小規模でも企画をしていき、道民への普及という、北海道150年の節目としての企画があってもいいのかなと思いました。</p> <p>また、横山松三郎なども、やはり、普通にあるのかなと思っていたのですが、コレクションがされていないというのがあって、私は写真論とかを、紹介しているんですよ、横山松三郎を授業等で、ですので、何かこう、その辺をもう一つ、美術史の一分野としてでも大事なのかなとっていました。</p> <p>あと、アートギャラリー北海道ですが、今、始まったばかりということで、私もいくつかの館に行かせていただきました。</p> <p>では、すぐに、スタンプラリーに行くかということ、なかなか大変なところもありますが、でも、ああいうのを見ると行きたくなるというのがあります。</p> <p>色々な他の美術館、道立以外の美術館と連携をされつつあるということですが、例えば、道立6館がそれぞれ紹介し合うような展覧会、例えば、旭川のコレクション展を釧路でやるとか、帯広のを札幌で見れるとか、何か小規模でも常設的なものでも、あるいは企画的なものでもあると、その代表作品を見て、次、釧路の近くに行ったらそこも寄ろうとか、何かそういうようなところで、他館もあるんですけど、それぞれこんな6館もあるので、互いに紹介し合うと見ている方としても嬉しいということ。</p> <p>あと、学芸員の育成ということもあと思いますが、それぞれの今あるコレクションを研究し直して、追加調査とかですね、そこで、それぞれの学芸員と組みながら展覧会を企画していくことだと、とても重要な研修にもなるような、そういう人材育成にもなるのではないかと、話を</p>

北海道教育大学
岩見沢校
三橋教授

聞いていて感じました。

基金のことですが、作品として寄附いただくようなところ、どこからか作品を買っていただいて寄附いただくみたいなのところとか、ドネーションのやり方を、今、クラウドファンディングとか色々ありますけれど、何かそういう研究を若い人でもされていくと、美術館のマネジメントの研究ということにもなるので、そういうところも少し行っていくと、他館に出張できたりなど、いい面になるのかなと思いました。以上です。

文化財・博物館課
小松課長

ありがとうございました。お二人の委員さんから色々とお意見をいただきました。

間口が広がっているように見えるところもあるのかもしれませんが、その辺、第4期の計画で、決して、領域を狭めるということをする必要はないのかなとは思いますが、そうはいつでもやはり、どこかに焦点をしっかりと当てるとするのは、我々の考え方として出てくる必要があるのかなと思います。

あとは、もう一方、北海道の美術史をたどることに繋がるような収集をということで、それは、道立美術館の役割なのかなという風に考えております。

あとは、写真の打ち出しですとか、第4期計画の素案に、その辺の盛り込みが必要かどうかということも含めて、幹事会などで検討させていただきたいと思います。

アートギャラリーについても色々とお意見をいただきましてありがとうございます。まだまだ滑り出しでして、道立館同士の連携も当然必要だと思っております。

また、人材を育成するという意味でも、ただ単に作品のやりとりだけではなくて、色々な形のネットワークを作っていきたいと考えております。

基金は、我々の悩みどころでして、他県の状況を見ましても、今はやりのクラウドファンディングなどを使っているところもあるのですが、そんなにお金が集まっているかということ、そうでもないという状況がありまして、でもそうは言っても今、財政だけに頼るとするのはなかなか困難かなと思っています。

どういう工夫ができるのかということ、これから考えていく必要があると思っていますので、色々とお知恵を拝借することができれば、ありがたいです。

札幌芸術の森
美術館
佐藤館長

一つありまして、作品の収集ということに関してですが、これに付随して資料が沢山あります。資料、作品の二次資料と言いますが、調査と収集が連動するということです。

なので、資料があって、それを継続して収集してということにどうしてもなるので、収集というのは作品のみではないということ、どこかで意識しておく必要があると思います。

実は、今、札幌芸術の森美術館で、砂澤ビッキの資料を調査してアーカイブ化していくことを行っています。この、美術館におけるアーカイブ化というのも、今、大きな流れになってきているので、アーカイブとしての作品の収集のあり方を意識していく必要があるのかなと思います。

また、それに付随しますが、調査していると、御遺族等と連携ができる、すると館が信頼される訳です。そうすると、作品を寄贈しましょうかということになったりします。購入しなくても信頼があれば収蔵ができてくるということがあると思います。

なので、そういう風に調査で信頼を高めるという方法もあるという感じもしますし、それから、若い作家の展覧会を積極的に開催すれば、作

	家が作品を寄贈することもあるでしょうし、ゆくゆくは、つまり、博物館・美術館の活動の全てが収集につながっているということ、どこかで意識していけば良いかと思います。
文化財・博物館課 小松課長	まずは、美術品ということにこだわらず、二次資料のアーカイブ化のようなことも視野に入れることと、調査がうまく収集に結びついていくということが、この収蔵計画の中で何か明示できていればいいなことですね。
札幌芸術の森美術館 佐藤館長	そういう情報にアクセスできるようにしておく、ホームページ等でそれを公開していくということも考えたらいいかと思います。
文化財・博物館課 小松課長	わかりました。検討させていただきます。 各館の方からも何かございませんか。収蔵に関わることでなくても構いません、折角の機会ですので。
札幌芸術の森美術館 佐藤館長	横山松三郎は厳しいですね。御遺族がいるので、しっかり連携を取って、資料が函館に来るようにできたらいいかと思います。
旭川美術館 梶浦館長	先ほど先生からお話がありました道立地方美術館同士の作品の貸出しについて、ずっと思っていました。 保険料が高くて、交流したいけど運送費と保険が高くてなかなか難しいという話を聞いて、そうだと思いますが、道立は親子みたいなもので、近代美術館のお父さんがいて、あとは皆子どもなので、その間の作品の輸送は、保険金をもっと安くしてやれるとか、何かがないと、作品は来てほしいけど来ないです。
札幌芸術の森美術館 佐藤館長	アートギャラリー北海道の構想は素晴らしいですけど、まず、輸送費・保険料をどうするかです。北海道に関連していえば、保険料は減免されますとか、そういうのがあればいいのですが。
旭川美術館 梶浦館長	そうでないと、行かないと見れないのは、もったいないと思います。
函館美術館 堤館長	作品に対する保険料なので、それはなかなかゼロという訳にはいかないのではないのでしょうか。
近代美術館 苫名学芸部長	下げたいのですが、運送業者がうんと言いません。
旭川美術館 梶浦館長	自分たちで取りにいく訳にはいかないですし。専門業者でないと。
函館美術館 堤館長	私は最初就任した時に、近代美術館に作品が沢山あるからどうにかならぬかと言いましたら、その話が出ました。
文化財・博物館課 小松課長	賃借料は当然取らないにしても、そういう経費が必要ということですね。
北海道教育大	その辺、共催とか取れないですかね。保険料は変えられないでしょう

学岩見沢校 三橋教授	から、輸送料のコストは特別協賛とか、航空会社でエア・フランスとか、そういうようなことしてますよね。 課題がわかっているのですから。
文化財・博物館課 小松課長	そうですね、自前の作品といいますか、道立美術館同士ですから、ハードルが他の館より低い訳で、何かできることはあるのか、工夫できることはあるのか検討しなければいけません。
文化財・博物館課 久米主幹	アートギャラリー北海道でそういうことは最初から課題としてあったので、想定していたのが、相互交換ということでした。 保険料や運送費をいじることができないので、空のトラックで行って持ってくるのではなくて、作品を持って行って借りてくるということにより、お互い半分ずつ出し合いましょうというのが当初の構想としてありました。それがまだ実現しているわけではないのですが、経費負担を少しでも減らすための方策として。
北海道教育大学岩見沢校 三橋教授	例えば、1年に一つ共同で作って、そのパッケージを回すだけでも、少し安くできます。
文化財・博物館課 久米主幹	例えば、地域創造の展覧会でもやっていることですが、共通のポスターをお互い出し合って作るということで、1つの展覧会を仕上げるのに、通常よりは半額に近い形でできればというのが、実は、アートギャラリー北海道の裏じゃないですけど、表だって言っていますけど、目的だったりするのですが。
旭川美術館 梶浦館長	年間の1つの展覧会を、北海道の地方美術館で回す展覧会に、2年か3年に1回くらいは、それを展覧会にする、そこにお金をかけるみたいな。
北海道教育大学岩見沢校 三橋教授	北海道は遠いので、九州よりも大きいので、回しても観客は違うと思います。かぶらないと思うので。
旭川美術館 梶浦館長	本来持っている良いものを、3年か4年に1回は道民に還元できるような予算繰りというか、年度当初から、館の選りすぐり、これは人が来るから、というのをパッケージにして回すのを、毎年は無理なので、3年か4年に1回は「北海道地方美術館回覧展」みたいにできればと思います。
北海道教育大学岩見沢校 三橋教授	そういうのをわかっているのであれば、パッケージで、各学校と連携や教育普及事業とか、出前の出張の展覧会など、そういうのをセットで全部組めば、教材的なものも開発できるかもしれませんし、過疎地の方とか、私どもの教育大とか、そういう所にも回せるのかもしれません。 今のICTとかそういうもので、遠隔でも授業ができるのであれば、元があって、しかも長い間やってくれるというのが、一番、学校とかも対応しやすいので、授業としても成り立つのではないかと思います。
文化財・博物館課 小松課長	学校教育の連携という意味でも、非常にいいですよ。
北海道教育大	あると思えば、そういうものを予定していけますので。

学岩見沢校 三橋教授	
文化財・博物館課 小松課長	そうですね。年次計画の中に取り込まれていると、皆さんにとっても使いやすいです。
北海道教育大学岩見沢校 三橋教授	教員の研修などにも使えますし。
文化財・博物館課 小松課長	ありがとうございます。検討させていただきたいと思います。貴重な御意見、ありがとうございます。他にございますか。
札幌芸術の森美術館 佐藤館長	芸術の森で困っているのですが、作品収集をしますとでてくる問題で、寄贈の際、輸送費はどうされていますか。
函館美術館 堤館長	私たちは、相手方をお願いするしかありません。
札幌芸術の森美術館 佐藤館長	札幌芸術の森美術館の方は、市に予算を工面してもらっています。道立美術館では一切措置されていないということを知りましたが、それは全部作家持ちでしょうか。
近代美術館 苫名学芸部長	今日、この後、トラック1台分ガラス作品を積んで、東京から運んでもらいますが、作家御本人の負担です。
札幌芸術の森美術館 佐藤館長	完全にそうってしまったのですね。昔は輸送費を工面してもらっていたようですが。
近代美術館 苫名学芸部長	とても使えるような役務費がないので。
札幌芸術の森美術館 佐藤館長	収蔵を寄贈に頼るとというのが、現状です。その時に、寄贈いただくための輸送費がどうなっているかというのがネックです。相手方が了解して持ってくれるというのは、それはそれでいいのですが、促進ということにはなりません。
文化財・博物館課 小松課長	そうですね、こちらから寄贈はお願いしたいけれど、なかなかお金がないという現状です。
近代美術館 苫名学芸部長	近代美術館も、今日の午後から入っている作家は、うちはOKしてくれたのですが、向こう持ちで、ただ、その後、別の美術館からお願いしたら、輸送費を持ってないならお断りしますと断られてましたから、それによって寄贈がなくなる可能性も結構あります。
文化財・博物館課 小松課長	作品を購入するのもそうですけれども、寄贈いただくにしても、本来であれば、そういうものがしっかりあれば本当に望むものが収集できるのですが、現状では厳しいです。

札幌芸術の森 美術館 佐藤館長	あとは、それより一層、学芸員の資質を高めて、この学芸員いたら、絶対寄贈しますというような。
文化財・博物 館課 小松課長	ここの美術館に是非、収めさせてほしいということですね。
札幌芸術の森 美術館 佐藤館長	<p>館の信頼ですよ。ちょっと現計画の評価に出ていましたけれども、これまで、道立館の作品というのは、それぞれの館の開館以来、購入したり寄贈されたりしていると思うのですが、半分以上寄贈だと思えます。寄贈に頼っているので、寄贈に対する配慮が必要ですよね。</p> <p>もし、お金がないのであれば、館の信頼を高めるしかない。調査をよくするなど。</p> <p>総合的にコレクターとか作家との関係を良くしていき、館の信頼を高める。</p>
文化財・博物 館課 小松課長	<p>調査研究と収集がしっかりと結びついていくということですね。</p> <p>よろしいでしょうか。色々と御意見をくださり、ありがとうございました。</p> <p>第4期の計画について、色々と御意見いただきました。</p> <p>御意見に基づき、内容の修正できるところは修正しまして、後日、皆さんに送付いたしますので、御確認いただきたいと思います。</p> <p>その後、年度内に平成31年度からの計画を決定したいと思います。</p> <p>それでは、以上を持ちまして、収蔵計画策定検討会議を終了します。</p> <p>ありがとうございました。</p>